

	Q5-今後、土曜閉所を実施しようとするにはどのようなことが必要だと思いますか	元請	発注者	協力業者	業界	法律	その他	工期設定	意識改革	工程管理	強制	制度改革	要員	振替	事務作業軽減
1	季節(施工場所の天候等)や施工可能期間を考えていない工期設定、労働力や施工機械数を考慮していない工期設定による集中発注により、受注者は土曜まで含めた計画工程となる。発注者の理解を促す働きかけが重要。		○					○							
2	「土曜閉所」が形骸化しないように、本来の目的を見失わないよう、柔軟な考えで進めるべき。														
3	震災復興の現場で、制約条件(河川内で作業出来る期間が制約されている)がある場合には実施することは難しい。(代わりに休止期間中に休むしかない)						○							○	
4	災害復旧工事が全て終わること														
5	(過去の経験もふまえると)災害復旧工事に適用するのは、難しいように思う。														
6	作業所長の意識が重要。	○							○						
7	発注者側の余裕ある工程での発注		○					○							
8	土曜閉所を意識して、普段の業務を行う。	○							○						
9	発注者および業界の土曜閉所に関する理解。具体的には工事発注時期の平準化や内外関係者へのアピール、業界のリーダーシップ。		○		○				○						
10	基本、海上作業(天候に左右されやすい作業)や、工程に余裕がない工事以外は、「所長の意志」しだい、のところが大きいと思われる。	○							○						
11	工程に余裕があり、作業所および協力会社が土曜閉所の意識を持っていること。	○		○				○	○						
12	工程上の余裕、施工(交代)要員の増員							○							
13	発注者の工期設定に問題がある。発注者が、もっと余裕のある工期を設定する必要がある。		○					○							
14	適正な工期での契約		○					○							
15	外的支障がなければ、作業所長の意識次第だと考えます。	○							○						
16	閉所に向けた 工程管理	○								○					
17	発注者側の適正な設計工事計画に基づく発注形態。協力会社の適正な受注と利潤が得られ		○					○							
18	天候、外的要因、人員不足、工程が順調か早くなっていれば、土曜閉所はできるでしょう。今の状況では、工程を短縮するのが難しいと考えます。									○			○		
19	発注者の意識、工期設定の緩和		○						○	○					
20	余裕のある工期設定・工程の余裕、適切な要員配置		○					○					○		
21	職員全員が土曜閉所に向けた意識を持つ。余裕を持った工程管理を行う。	○							○	○					
22	土曜日にこだわらず、作業単位の端境期に取得することを提唱する。協力会社に対し土曜閉所(または作業単位の端境期)を行うことに対し、見積もり条件に付加する。			○										○	
23	適正工期の確保				○			○							
24	発注者による強制的な閉所要請があれば、特異な場合を除き対応が容易だと思われる。		○								○				
25	土曜閉所のアナウンスをもっと頻繁に行う。	○							○						
26	発注者の設計段階で、土曜日を作業日から除いて余裕のある工期を設定してもらう。		○					○							
27	事前の準備と、協力会社の協力が必要だと思う。	○		○						○					
28	土曜閉所の早期計画と職員の実行力、土曜閉所を考慮した工程管理	○								○					
29	工程や要員の余裕。施主や発注者の要請。協力会社の協力		○				○	○					○		

	Q5-今後、土曜閉所を実施しようとするにはどのようなことが必要だと思いますか	元請	発注者	協力業者	業界	法律	その他	工期設定	意識改革	工程管理	強制	制度改革	要員	振替	事務作業軽減
30	「魅力ある、働きやすい建設業界にする。」という意識を、関係者全員が共有することが重要であるとする。各自ができることから取り組む努力をすることが必要。	○		○	○				○						
31	官庁工事においては、設計上の経費、労務単価及び工程のさらなる見直しが重要。		○					○							
32	発注者による適切な工期設定		○					○							
33	全ての土曜日を閉所とする事は、休業に見合う歩掛・単価変更、工期設定などの発注者側の理解が必要である。また不測の事態に備え工事を早く消化したい意識があり、月に1度程度の閉所ができるかどうかといった所が実態である。		○					○	○	○					
34	実情に合った工期工程設定(労働者確保、人工の考慮)。 発注者理解が重要、現状での理解は薄い。 発注者、協力会社への働きかけを通年継続すること。毎月設定でも良い。 設計段階から土日祝日の稼働を除外する。休日取得を契約条件にする。		○					○	○		○				
35	海上工事は土日無しで連続施工のため、代休取得への理解。 工期を守るために必要な作業員・作業時間を工事着手の段階から計画的に確保すること。 要員の確保、書類簡素化。	○	○						○	○					○
36	安全、衛生週間の取り組みと比べるとインパ外が薄い。完全実施を目標とすべき。 作業員の給与を週休2日ベースの月給制にする。			○								○			
37	工程や施工環境によるが計画的に閉所出来れば良い。	○								○					
38	引き続き、事前周知等を行い、意識の向上を図る。	○							○						
39	現場職員の意識高揚に加え、協力会社や発注者との情報共有をおこない、理解を深めることが重要。	○	○	○					○						
40	施工前の各種手続き期間等を含む準備・後片付け期間を考慮した発注者の適正な工期設		○					○							
41	労務単価の向上による作業員の生活向上を伴う協力会社の協力。			○								○			
42	組合からでなく、会社命令とする。	○									○				
43	工場内だと、顧客の要望もあるため難しいと思う。そのため、代休等をうまく活用できるように事務所内の人の調整をしていく必要がある。	○											○		
44	自然条件や発注者都合により、一斉閉所は難しいが、代休等にて対応していきたい。	○												○	
45	本社、支店からの実施要請と協力会社の理解。	○		○					○						
46	作業所長、協力会社の意識改善。工期工程の見直し。	○		○				○	○	○					
47	労務の確保と労務賃金のアップ	○	○									○			
48	適正な人員配置	○											○		
49	作業員の日当が上がらないと積極的にはなれない			○								○			
50	受注段階で工程に余裕がなければ土曜閉所する余裕はない		○					○							
51	受注時の工程確保		○					○							
52	特別な理由(近隣住民要望等)が無い限り、現時点では難しい														
53	労務不足の現状も見込んだ工期の確保		○					○							
54	労働時間に見合った業務内容(作業量)への軽減化	○													○
55	会社として強制的に休みにする	○									○				

	Q5-今後、土曜閉所を実施しようとするにはどのようなことが必要だと思いますか	元請	発注者	協力業者	業界	法律	その他	工期設定	意識改革	工程管理	強制	制度改革	要員	振替	事務作業軽減
56	工事受注する際から、土曜閉所の工期を取り入れ、竣工日を査定する		○					○							
57	下請け職人の給料を土曜日休んでも生活できるように賃金を上げる			○								○			
58	改修工事は、施主の要望等があり、土曜日、祝日は工程に組込まれている場合が多い(施主の理解が必要)		○						○						
59	マスター工程表作成時に土曜閉所を見込んでおかないと実施するのは難しいと思う	○								○					
60	天候まで考慮した工期の余裕		○					○							
61	職方は土曜日働かなければ賃金が減る職方が多いので、働きたい職方を使っている今の時期は無理			○								○			
62	発注者との契約時に、土曜閉所を盛り込んでもらわないと、監理者・発注者は、土曜日も含めて、検査等の予定や、当初の工程を要求してくるので、現場サイドだけでは解決しません。発注者側の意識を変えないと現実的には難しい。		○					○							
63	工事受注する際から、土曜閉所の工期を取り入れ竣工日を査定する		○					○							
64	下請け職人の給料を土曜日休んでも生活できるように、賃金を上げる			○								○			
65	土曜閉所を義務化し罰則を設ける					○					○				
66	余裕のある要員と工程。	○	○					○					○		
67	月1回程度は、土曜閉所を根気強く推奨する。	○							○						
68	必要ない。														
69	会社の指導と協力会社の協力が必要。	○		○					○						
70	工程に余裕がないと土曜閉所はできない。発注者の理解が必要。		○					○							
71	完全週休2日が実施できるほど工程に余裕がないので、発注段階で土曜閉所を考慮した工期設定が必要。		○					○							
72	現場の作業員は日給制がほとんどなので、土曜閉所は敬遠されてしまう。もし職長や能力の高い作業員が月給制となれば、土曜閉所だけでなく人材の確保にもつながると思う。			○								○			
73	本工事は民間工事だが、工期的に余裕があったため土曜閉所が可能であった。ただし、民間の補修、改修工事は客先の操業が無いときしか行えないため、土曜閉所は困難であり日付の読み替えでの対応となる。	○												○	
74	土曜閉所に対し作業所としての意識は高いため、外的要因(発注者の要望等)が無い時期であれば、実現は十分可能である。		○						○						
75	作業員の安定した給与確保と、天候に左右されない工期、工程の余裕が必要。		○	○				○				○			
76	工事工程に余裕があれば実施可。		○					○							
77	竣工検査が終わったら、土曜は閉所にする。(竣工検査前の作業所)	○												○	
78	工程管理と協力会社の協力。	○		○						○					
79	余裕のある工程管理。発注者からの指導。		○					○							
80	作業所の意識次第。	○							○						
81	早期に予定を組めば、出来ると思う。	○								○					
82	現場では工期に余裕がある場合のみ実施可能と思います。	○								○					
83	作業所長が土曜閉所に対する意識を持つこと。	○							○						

[illegible]

[illegible]

	Q5-今後、土曜閉所を実施しようとするにはどのようなことが必要だと思いますか	元請	発注者	協力業者	業界	法律	その他	工期設定	意識改革	工程管理	強制	制度改革	要員	振替	事務作業軽減
155	土曜日の作業は改修工事の全体工程に組み込まれているので、改修工事は施主様が休日の時に限定される														
156	躯体サイクルは14日で工期を作成する(今回は12日になっていた)	○								○					
157	発注者・協力会社の理解、協力が必要。適正工期による受注		○	○				○	○						
158	継続的行う事が必要だと思います。意識改革	○							○						
159	工程管理の徹底。作業所の人員体制確保。工期の確保	○	○					○		○			○		
160	工程と協力会社の協力		○	○				○	○						
161	事前の準備を行う事	○							○						
162	受注時十分な工期の確保をお願いします		○					○							
163	事前の計画にて協力業者の協力が必要	○		○					○	○					
		68	66	29	6	5	2	53	41	23	16	16	12	9	3